

金山喜昭 経歴・研究業績一覧

経歴

■学歴

- 1977 年 3 月 國學院大學文学部史学科卒業
- 1993 年 3 月 法政大学大学院人文科学研究科日本史学専攻修士課程修了（文学修士）
- 1997 年 3 月 法政大学大学院人文科学研究科日本史学専攻博士課程単位取得満期退学

■学位

- 博士（歴史学） 國學院大學 文乙第 164 號（2001 年 7 月授与）

■外部研究資金

- 2001 年 4 月～2002 年 3 月 財団法人高梨学術奨励金の調査研究助成採択「前期旧石器とその社会構造の基礎的研究」（個人）
- 2013 年 4 月～2016 年 3 月 科研費（基盤研究 B）「日本の博物館総合調査研究」（研究分担者）
- 2017 年 4 月～2020 年 3 月 科研費（基盤研究 C）「指定管理者制度を導入した公立博物館の経営に関する総合調査研究」（研究代表者）
- 2021 年 4 月～2025 年 3 月 科研費（基盤研究 C）「博物館収蔵資料の保管と活用に向けた調査研究」（研究代表者）

■職歴

- 1977 年 4 月～1979 年 3 月 小平市鈴木遺跡調査団調査員

1979 年 4 月～1983 年 3 月	國學院大学文学部博物館学研究室部助手
1983 年 4 月～1984 年 3 月	相模原市橋本遺跡調査団調査員
1984 年 4 月～2002 年 3 月	野田市教育委員会野田市郷土博物館学芸員 同館館長補佐（1997 年 4 月～）
1996 年 4 月～2000 年 3 月	日本大学芸術学部非常勤講師（博物館学概論、考古学）
1997 年 4 月～2003 年 9 月	東京農工大学工学部非常勤講師（博物館経営論・情報論）
1998 年 4 月～1999 年 3 月	東京都立大学人文学部非常勤講師（博物館学概論、博物館経営論・情報論）
1999 年 9 月～2004 年 3 月	首都大学東京人文社会学部講師（博物館学）
2000 年 4 月～2002 年 3 月	法政大学文学部非常勤講師（博物館実習Ⅱ）
2002 年 4 月～2003 年 3 月	法政大学文学部助教授
2003 年 4 月～2007 年 3 月	法政大学キャリアデザイン学部助教授
2003 年 10 月～2008 年 3 月	東京大学大学院人文科学研究科 / 文学部講師非常勤講師（博物館学Ⅰ）
2007 年 4 月～2025 年 3 月	法政大学キャリアデザイン学部教授
2008 年 4 月～2009 年 3 月	ロンドン大学（UCL）考古学研究所客員研究員
2009 年 4 月～2010 年 9 月	東京大学大学院人文科学研究科 / 文学部非常勤講師（博物館学Ⅰ）
2011 年 9 月～2012 年 3 月	お茶の水女子大学大学院人間文化創世科学研究科非常勤講師（文化財政策論）
2012 年 9 月～2025 年 3 月	明治大学文学部非常勤講師（博物館経営論）
2014 年 4 月～2025 年 3 月	明治大学大学院文学研究科非常勤講師（博物館経営特論）（隔年開講）
2019 年 9 月～2025 年 3 月	國學院大學大学院文学研究科非常勤講師（欧米博物館史特論）（2022 年～欧米博物館史特論等）
2019 年 9 月～2020 年 3 月	東京大学大学院人文科学研究科 / 文学部非常勤講師（博物館展示論）
2022 年 4 月～2024 年 3 月	江戸川大学社会学部非常勤講師（地域文化遺産論）

2025 年 3 月

法政大学定年退職

■主な学内活動

- 2009 年 4 月～2010 年 3 月 法政大学市ヶ谷キャンパス学生センター 副センター長
- 2005 年 4 月～2006 年 3 月 法政大学大学院キャリアデザイン研究科 副主任
- 2011 年 4 月～2012 年 3 月 法政大学キャリアデザイン学部 主任
- 2013 年 4 月～2017 年 3 月 法政大学キャリアデザイン学部 学部長
- 2013 年 4 月～2017 年 3 月 法政大学評議員
- 2018 年 4 月～2019 年 3 月 法政大学大学評価委員会 主任
- 2020 年 4 月～2021 年 3 月 法政大学大学評価委員会 副主任
- 2021 年 4 月～2023 年 3 月 法政大学ミュージアム運営委員会 委員

■学外委員等

- 2002 年 11 月～2025 年 3 月 文部科学省 学芸員資格認定試験に係る委員（2018 年～文化庁）
- 2004 年 4 月～2005 年 3 月 川崎市市民ミュージアム改善委員会 委員
- 2004 年 4 月～2010 年 3 月 千葉県柏市文化財保護委員会 委員
- 2004 年 7 月～2005 年 7 月 港区新郷土資料館基本構想検討委員会 委員
- 2005 年 3 月～2023 年 6 月 公益財団法人興風会 評議員
- 2005 年 5 月～2019 年 3 月 NPO 法人野田文化広場 理事・事務局長
- 2005 年 4 月～2015 年 3 月 島根県立古代出雲歴史博物館運営協議会 委員
- 2006 年 10 月～2007 年 3 月 松本市基幹博物館基本構想策定委員会 委員
- 2007 年 4 月～2019 年 3 月 NPO 法人野田文化広場による野田市郷土博物館運営（指定管理者）事務局長
- 2007 年 7 月～2013 年 9 月 花王・コミュニティミュージアム・プログラム（主催：花王株式会社、企画：NPO 法人市民社会創造ファンド）審査委員
- 2007 年 8 月～現在 千葉県野田市史編纂委員会 専門委員
- 2007 年 11 月～2008 年 3 月 財団法人横浜市ふるさと歴史財団 外部評価委員

2010 年 4 月～2022 年 3 月	文部科学省（2018 年～文化庁）学芸員等在外派遣研修審査委員会に係る委員
2010 年 4 月～2011 年 3 月	新潟市美術館の評価及び改革のための委員会 委員長
2011 年 5 月～2012 年 3 月	新潟市文化施設のあり方 アドバイザー
2011 年 6 月～2011 年 9 月	多摩六都科学館組合指定管理者候補者選定委員会 委員
2011 年 6 月～2022 年 3 月	新潟市美術館及び新潟市新津美術館協議会 委員
2012 年 2 月～2017 年 3 月	北秋田市史跡伊勢堂岱遺跡整備検討委員会 委員
2012 年 6 月～2014 年 5 月	川崎市市民ミュージアム協議会 委員
2012 年 9 月～現在	公益財団法人茂木本家美術館 理事
2014 年 4 月～2015 年 3 月	ICOM The Museum2014 実行委員会委員
2014 年 7 月～現在	新潟市新津鉄道資料館協議会 座長
2015 年 3 月～同年 10 月	公益財団法人日本博物館協会「博物館白書編集委員会」 委員
2017 年 5 月～2018 年 3 月	文部科学省「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業にかかる事業選定委員会」 委員
2018 年 2 月～2019 年 2 月	文部科学省 中央教育審議会 専門委員
2018 年 4 月～2019 年 3 月	文部科学省「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」における「持続的な博物館経営に関する調査」技術審査会技術審査 専門委員
2018 年 11 月～2019 年 3 月	文化庁「持続的な博物館経営に関する調査」の企画評価委員
2019 年 4 月～2020 年 3 月	公益社団法人日本博物館協会「博物館総合調査」 委員
2019 年 4 月～現在	公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 理事
2019 年 9 月～現在	東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会 委員
2020 年 5 月～2020 年 9 月	文部科学省「EBPM をはじめとした統計改革を推進するための調査研究（社会教育調査の改善に資する

	調査研究) 委託事業 審査委員
2020 年 7 月～2021 年 3 月	川崎市文化芸術振興会臨時委員
2020 年 7 月～2021 年 3 月	(文部科学省委嘱事業) 社会教育調査の改善に資する調査研究有識者研究会 委員
2020 年 9 月～2022 年 3 月	文化庁 博物館等の国際交流の促進事業選定委員会 委員
2021 年 7 月～現在	全日本博物館学会 常任委員
2021 年 5 月～2024 年 9 月	東京都江戸東京博物館外 5 施設指定管理者評価委員 日本看護協会における博物館に関する検討委員会 委員長
2023 年 2 月～現在	公益財団法人日本博物館協会「新登録制度実行のための体制の検討・整備に係る検証・普及事業」アドバイザーボード 委員
2023 年 3 月～現在	高知県立歴史民俗資料館資料収集方針・収蔵のあり方検討会 委員
2025 年 1 月～現在	(文化庁委託事業)「博物館の収集方針に関する調査研究」アドバイザー

研究業績

■著書

1. 『地域博物館のソーシャル・マーケティング戦略』(1999 年 9 月) 全 219 頁、ミュゼ
2. 『日本の博物館史』(2001 年 7 月) 全 426 頁、慶友社
3. 『博物館学入門 ― 地域博物館学の提唱 ―』(2003 年 5 月) 全 251 頁、慶友社
4. 『公立博物館を N P O に任せたら ― 市民・自治体・地域の連携 ―』(2012 年 3 月) 全 217 頁、同成社
5. 『博物館と地方再生 ― 市民・自治体・企業・地域との連携 ―』(2017 年 3

月) 全 183 頁、同成社

6. 『指定管理者制度を導入した公立博物館の経営に関する総合調査研究』平成 29 年～令和元年度 日本学術振興会科学研究費助成研究成果報告書 (2020 年 1 月) 全 160 頁

■編著

1. 『キャリアデザイン学への招待』 児美川孝一郎・武石恵美子共編 (2014 年 1 月) 全 216 頁、ナカニシヤ出版
2. 『法政大学学芸員課程設立 50 周年記念シンポジウム報告書：大学における学芸員養成を展望する～新カリキュラムの実践と検証を踏まえて～』 (2015 年 3 月) 全 96 頁、法政大学資格課程
3. 『転換期の博物館経営——指定管理者制度と独立行政法人の検証と展望——』 (2020 年 4 月) 全 248 頁、同成社
4. 『博物館のコレクション管理——ポスト・コロナ時代の資料の保管と活用』 (2022 年 6 月) 全 267 頁、雄山閣
5. 『博物館のコレクション管理——ポスト・コロナ時代の資料の保管と活用 (増補改訂版)』、(2023 年 6 月) 全 277 頁、雄山閣
6. 『博物館の収蔵庫問題と新たなコレクション管理』 (2024 年 12 月) 雄山閣
7. 『改正博物館法で博物館はどうなる』 (2025 年 1 月) 同成社

■共著

1. 「鈴木遺跡の礫群の研究」 (共著者：溝口優司、小田静夫、赤沢威) 『鈴木遺跡 (I)』 (1978 年 3 月) 349 頁 - 388 頁
2. 「博物館の規模とその構成：博物館の職員」「博物館の予算規模とその内容」「館種別博物館における現状と課題：歴史系博物館」 (共著者：加藤有次) 『博物館学講座 3 (日本の博物館の現状と課題)』 (加藤有次編) (1980 年 3 月) 全 280 頁中 34 頁、雄山閣出版
3. 「館種別博物館史：歴史系博物館史」 (共著者：加藤有次) 『博物館学講座 2 (日本と世界の博物館史)』 (樋口秀雄編) (1981 年 1 月) 全 243 頁中 29 頁、雄山閣出版

4. 「館種別博物館の調査研究：総合博物館」（共著者：加藤有次）『新編博物館学講座 6（博物館調査研究法）』（加藤有次・鷹野光行・西源二郎・山田英徳・米田耕治編）（2001 年 10 月）全 199 頁中 13 頁、雄山閣出版
5. 「資料等の収集保管」（共著者：瀬谷愛）『令和元年度 日本の博物館総合調査報告書』（2020 年 9 月）全 294 頁、127 頁 - 148 頁、公益財団法人日本博物館協会
6. 『博物館収蔵資料の保管と活用に向けた調査研究（公立博物館アンケート調査結果）報告書』（日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究（C）22K01019）（2024 年 5 月）（共著者：石川貴敏）全 175 頁
7. 「（日本学術会議史学分会）シンポジウム パネルディスカッション」（共著者：栗原祐司、小佐野重利、井上由佳、松田陽、栗田秀法、佐久間大輔、芳賀満）『博物館の未来を考える』（「博物館の未来を考える会」刊行会編）（2021 年 8 月）93 頁 - 118 頁、中央公論美術出版
8. 「（パネルディスカッション）博物館の収蔵コレクションの現状と課題を考える」（共著者：石川貴敏、岡本桂典、篠崎茂雄、佐々木彦彦、金山喜昭、半田昌之、中尾智行、竹内有理、栗原裕司、田中裕二）『博物館の収蔵庫問題と新たなコレクション管理』（金山喜昭編）（2024 年 12 月）雄山閣

■分担執筆

1. 「旧石器時代の東葛地方」「倉之橋遺跡」『東葛上代文化の研究』（古宮・下津谷両先生還暦記念祝賀事業実行委員会編）（1988 年 5 月）全 349 頁中 5 頁
2. 「博物館の種類：公立博物館」「私立博物館」「博物館と地域社会」「博物館職員とは」「職員の専門性」『博物館ハンドブック』（加藤有次、椎名仙卓編）（1990 年 4 月）全 337 頁中 18 頁、雄山閣出版
3. 「江戸・東京湾の昔の話や偉い人の話：奥東京湾の貝塚」『江戸東京湾事典』（江戸東京湾研究会編）（1991 年 5 月）全 338 頁中 2 頁、新人物往来社
4. 「旧石器時代：石材」「礫群、配石、石囲い炉、土坑、住居」「縄文時代：石材」『図解日本の人類遺跡』（小野昭、春成秀爾、小田静夫編）（1992 年 5 月）全 242 頁中 12 頁、東京大学出版会
5. 「黒曜石の産地推定から交易を明らかにする」『新視点日本の歴史 1（原始編）』

- (鈴木公雄・石川日出志編)(1994 年 4 月) 全 340 頁中 7 頁、新人物往来社
6. 「海進海退現象」『考古学による日本の歴史 16 (自然環境と文化)』(大塚初重、白石太一郎、西谷正、町田章編)(1997 年 5 月) 全 178 頁中 8 頁、雄山閣出版
 7. 「野田醤油醸造業と水運」『利根川～人と技術文化』(北野進・是永定美編)(1999 年 3 月) 全 290 頁中 14 頁、雄山閣出版
 8. 「海進海退」「貝塚」『縄文学の世界』(小林達雄編)(1999 年 5 月) 全 254 頁中 3 頁、朝日新聞社
 9. 「館種別博物館の企画運営：郷土博物館」『新編博物館学講座 12 (博物館経営論)』(加藤有次・鷹野光行・西源二郎・山田英徳・米田耕治編)(1999 年 10 月) 全 232 頁中 5 頁、雄山閣出版
 10. 「館種別博物館の役割と使命：総合博物館」「郷土博物館」『新編博物館学講座 3 (現代博物館論)』(加藤有次・鷹野光行・西源二郎・山田英徳・米田耕司編)(2000 年 4 月) 全 239 頁中 9 頁 4 月、雄山閣出版
 11. 「前期旧石器捏造事件と博物館展示の対応」『検証日本の前期旧石器』(春成秀爾編)(2001 年 5 月) 全 201 頁中 4 頁、学生社
 12. 「国宝館」他『博物館学事典』(全日本博物館学会編)(2011 年 8 月) 雄山閣
 13. 「細石器」他『角川世界史辞典』(2001 年 10 月) 角川書店
 14. 「博物館における調査研究活動：他館との共同研究」「大学等他の研究機関との連携」「館種別博物館の調査研究：歴史博物館」『新編博物館学講座 6 (博物館調査研究法)』(加藤有次・鷹野光行・西源二郎・山田英徳・米田耕治編)(2001 年 10 月) 全 199 頁中 34 頁、雄山閣出版
 15. 「‘教える’から‘学ぶ’への転換」『学ぶ心を育てる博物館～「総合的な学習の時間」への最新実践例』(金山喜昭・平岡健・長島雄一・古澤立巳・廣瀬隆人編著)(2000 年 3 月) 全 126 頁中 16 頁、ミュゼ
 16. 「全体討論」(司会)『前期旧石器問題とその背景』(小田静夫、小野昭、小林達雄、笹川孝一他)(段木一行監修)(法政大学文学部博物館学講座編)(2002 年 3 月) 全 218 頁、ミュゼ
 17. 「考古学と博物館：野外博物館と史跡整備」『NHK 学園通信講座考古学入門』(小林達雄編)(2004 年 4 月) 全 202 頁中 2 頁、学校法人日本放送協会学園

18. 「旧石器時代の解説」「旧石器時代：槇の内遺跡、尾崎南遺跡、岩名第 14 遺跡」『野田市史資料編考古』（2005 年 3 月）全 429 頁中 13 頁、野田市
19. 「キャリアデザインによるまちづくり」『キャリアデザインへの挑戦——58 人のキャリアデザイン論』（菊地達昭編著）（2007 年 9 月）全 299 頁中 4 頁
20. 「富士山に対する縄文人の意識化について」『富士山と日本人の心性』（天野紀代子・澤登寛聡編）（2007 年 10 月）全 353 頁中 22 頁、岩田書院
21. 「博物館の歴史と現状：歴史博物館」「総合博物館」「郷土博物館」『新編博物館概論』（鷹野光行・西源二郎・山田英徳・米田耕治編）（2011 年 3 月）全 299 頁中 33 頁、同成社
22. 「公立博物館を NPO が経営する成果と課題——指定管理者の NPO 運営館を直営期と比較する——」『人間の発達と博物館学の課題』（2015 年 2 月）全 379 頁中 24 頁、同成社
23. 「博物館指定管理者制度 指定管理者制度による民間企業運営館のヒアリング調査報告、日本学術振興会科学研究費補助金研究成果報告書基盤研究（B）『日本の博物館総合調査研究 平成 27 年度報告書』（研究課題番号：25282079）（研究代表者 篠原徹）（2016 年 1 月）49 頁 - 165 頁
24. 「第 7 部第 1 章シンポジウム報告 博物館指定管理者制度」『日本の博物館総合調査研究』（研究代表者 篠原徹）（日本学術振興会科学研究費助成事業研究調査報告書 基盤研究（B）25282079）（2016 年 1 月）249 頁 - 267 頁
25. 「博物館機能論史」『博物館学史研究事典』（青木豊・鷹野光行編）（2017 年 12 月）全 401 頁中 6 頁、雄山閣出版
26. 「指定管理者制度と博物館の動向」『転換期の博物館経営——指定管理者制度と独立行政法人の検証と展望——』（金山喜昭編）（2020 年 4 月）2 頁 - 23 頁、同成社
27. 「博物館と地域コミュニティの連携～学びのネットワーク形成をめざして～」『転換期の博物館経営——指定管理者制度と独立行政法人の検証と展望——』（金山喜昭編）（2020 年 4 月）170 頁 - 179 頁、同成社
28. 「博物館経営の展望」『転換期の博物館経営——指定管理者制度と独立行政法人の検証と展望——』（金山喜昭編）（2020 年 4 月）224 頁 - 243 頁、同成社
29. 「館種別分析：郷土・歴史博物館」『令和元年度 日本の博物館総合調査報告

- 書』(2020 年 9 月) 216 頁 - 226 頁、公益財団法人日本博物館協会
30. 「コロナ禍と博物館」『21 世紀の博物館学・考古学』(青木豊先生古稀記念発起人会編)(2021 年 2 月) 185 頁 - 199 頁、雄山閣
31. 「学芸員を研究職と認定する制度について」『博物館の未来を考える』(「博物館の未来を考える」刊行会編)(2021 年 8 月) 69 頁 - 82 頁、中央公論美術出版
32. 「博物館の収蔵資料の処分について」『日本の博物館のこれから IV —— 博物館法改正を巡る議論 ——』(研究代表者: 山西良平)(日本学術振興会科学研究費助成事業研究成果報告書) 基盤研究 (c) 課題番号 18K01115 (2021 年 8 月) 91 頁 - 107 頁
33. 「博物館の使命と学芸員のキャリア形成」『キャリア・スタディーズ』(田中研之輔、遠藤野ゆり、梅崎修編)(2024 年 9 月) 135 頁 - 143 頁、日本能率協会マネジメントセンター
34. 「はじめに」『博物館の収蔵庫問題と新たなコレクション管理』(金山喜昭編)(2024 年 12 月) 雄山閣
35. 「収蔵庫の満杯問題の所在と課題」『博物館の収蔵庫問題と新たなコレクション管理』(金山喜昭編)(2024 年 12 月) 雄山閣
36. 「はじめに」『改正博物館法で博物館はどうなる』(金山喜昭編)(2025 年 1 月) 同成社
37. 「改正博物館法とコレクション管理をめぐる諸問題～博物館登録制度の参酌基準の解釈について～」『改正博物館法で博物館はどうなる』(金山喜昭編)(2025 年 1 月) 77 頁 - 85 頁、同成社
38. 「改正博物館法とは何だったのか」『改正博物館法で博物館はどうなる』(金山喜昭編)(2025 年 1 月) 274 頁 - 296 頁、同成社

■学術論文等

1. 「先史時代遺跡の炭化物片の分布」(共著者: 小田静夫) 第四紀研究第 17 巻第 3 号(日本第四紀学会)(1978 年 11 月) 125 頁 - 141 頁

2. 「博物館展示法の一考察～ジオラマ展示を題材として～」博物館学雑誌第7巻第2号（全日本博物館学会）（1982年3月）30頁-39頁
3. 「武蔵野、相模野両台地における旧石器時代の礫群の研究」神奈川考古第19号（神奈川考古同人会）（1984年4月）1頁-34頁
4. 「神奈川県橋本遺跡出土の黒曜石の石器集中ヶ所の検討～旧石器時代における相模野台地の尖頭器文化の発生問題について」太平台史窓第3号（1984年10月）12頁-35頁
5. 「先土器時代の礫群研究史」古代文化第39巻7号（財団法人古代学協会）（1987年7月）36頁-51頁
6. 「礫群の機能と用途」古代文化第40巻第8号（1988年8月）1頁-20頁
7. 「古奥東京湾周辺における縄文時代黒浜期の貝塚形成と古環境」（共著者：小杉正人、張替いづみ、樋泉岳二、小池裕子）考古学と自然科学第21号（日本文化財科学会）（1989年3月）1頁-22頁
8. 「博物館における死者の展示」國學院大學博物館學紀要第13輯（1989年3月）45頁-53頁
9. 「鹿児島県博物館史」國學院大學博物館學紀要第14輯（1990年3月）42頁-53頁
10. 「始良 Tn 火山灰降下期における黒曜石石器群」國學院大學考古学資料館紀要第6輯（1990年3月）1頁-15頁
11. 「野田市大崎貝塚出土ウマ遺残の年代について～縄文時代にウマはいたか」（共著者：近藤恵、松浦秀治、松井章）人類学雑誌第99巻第1号（日本人類学会（1991年3月））93頁-99頁
12. 「先史時代の黒曜石研究史」法政考古学第17集（1992年3月）51頁-71頁
13. 「四代勝文斎製作の押絵扁額「醤油醸造之図」」野田市史研究第3号（1992年3月）117頁-135頁
14. Obsidian studies in Japan（英文）、法政大学大学院紀要第30号（1993年3月）89頁-97頁
15. 「縄文時代前期における黒曜石交易の出現」法政考古学第20集（1993年11月）61頁-85頁
16. 「博物館資料調査研究論（試論）——名匠勝文斎の押絵行燈を題材として——」

博物館学雑誌第 21 巻第 2 号（1996 年 3 月）1 頁 - 20 頁

17. 「博物館の特別展とその教育普及成果に関する研究（前編）—— ソーシャル・マーケティングに基づく新しい行動戦略 ——」 國學院大學博物館學紀要第 21 輯（1997 年 3 月）103 頁 - 121 頁
18. 「博物館の特別展とその教育普及成果に関する研究（中編）—— ソーシャル・マーケティングに基づく新しい行動戦略 ——」 國學院大學博物館學紀要第 22 輯（1998 年 3 月）57 頁 - 75 頁
19. 「野田郷土博物館における特別展「写真が語る野田の歴史と文化」と「野田の新しいまちづくりフォーラム」の開催～郷土博物館による「まちづくり」活動の一例」 博物館学雑誌第 24 巻第 1 号（1998 年 10 月）55 頁 - 74 頁
20. 「博物館の特別展とその教育普及成果に関する研究（後編）—— ソーシャル・マーケティングに基づく新しい行動戦略 ——」 國學院大學博物館學紀要第 23 輯、37 頁 - 47 頁
21. 「“まちづくり”と市民意識の形成に関する地域博物館の可能性」 博物館学雑誌第 24 巻第 2 号（1999 年 3 月）37 頁 - 50 頁
22. 「現代社会の批判機能をもつ博物館活動の試み —— 野田市郷土博物館の「私のコレクション」展 ——」 博物館学雑誌第 25 巻第 1 号（1999 年 9 月）63 頁 - 70 頁
23. 「近代以前の博物館思想と近現代博物館の形成史に関する一考察（前編）」 國學院大學博物館學紀要第 24 輯（2000 年 3 月）1 頁 - 50 頁
24. 「近代以前の博物館思想と近現代博物館の形成史に関する一考察（中編）」 國學院大學博物館學紀要第 25 輯（2001 年 3 月）1 頁 - 52 頁
25. 「近代以前の博物館思想と近現代博物館の形成史に関する一考察（後編）」 國學院大學博物館學紀要第 26 輯（2002 年 3 月）3 頁 - 57 頁
26. 「NPO 博物館とその現代的課題」 國學院大學博物館學紀要第 27 輯（2003 年 3 月）83 頁 - 98 頁
27. 「富士山と先史時代」（共著者：高橋毅） 国際日本学第 1 号（法政大学国際日本学研究所）（2003 年 10 月）
28. 「まちづくりを踏まえた公立博物館の役割」 法政大学キャリアデザイン学部紀要第 1 号（2004 年 3 月）29 頁 - 58 頁

29. 「前・中期旧石器捏造問題関係考古学者のキャリアと移行期の再設計」法政大学キャリアデザイン学会紀要第3号（2006年2月）67-82頁
30. 「まちづくりと市民のキャリアデザイン（1）——NPO 法人野田文化広場メンバーの場合——」法政大学キャリアデザイン学部紀要第3号（2006年3月）237頁-256頁
31. 「学芸員課程でのキャリア教育と派生する課題——フィールド調査と企画展“樽職人玉ノ井芳雄のキャリアと技”をめぐる大学生の意識調査より——」法政大学キャリアデザイン学会紀要 Vol.4（2007年2月）117頁-138頁
32. 「まちづくりと市民のキャリアデザイン（2）——NPO 法人野田文化広場が野田市郷土博物館を運営する基本的な考え方」法政大学キャリアデザイン学部紀要第4号（2007年3月）191頁-212頁
33. 「博物館と市民のキャリア形成——“ボランティア”から“はしかけ”へ」（共著者：布谷知夫・北村美香）キャリアデザイン研究 Vol.3（2007年9月）163頁-170頁
34. 「まちづくりと市民のキャリアデザイン（3）——市民コレクション展が市民のキャリア形成に与えた影響——」法政大学キャリアデザイン学部紀要第5号（2008年3月）201頁-226頁
35. 「学芸員になるまでのキャリアに関する一考察」法政大学キャリアデザイン学会紀要 Vol.6（2009年2月）187頁-206頁
36. 「まちづくりと市民のキャリアデザイン（4）——市民の要望による地域博物館とは——」法政大学キャリアデザイン学部紀要第6号（2009年3月）41頁-56頁
37. 「学芸員のライフキャリアに関する一考察」法政大学キャリアデザイン学会紀要 Vol.7（2010年2月）91頁-100頁
38. 「ミュージアム・コレクション論（1）」法政大学キャリアデザイン学部紀要第8号（2011年3月）49頁-68頁
39. 「地域博物館と市民のキャリアデザイン——市民のキャリア支援という視点から——」野田市郷土博物館・市民会館年報・紀要 Vol.3（2011年3月）99頁-119頁
40. 「公立博物館の経営効率をみる～直営館とNPO 運営館を比較する～」法政大

42 法政大学キャリアデザイン学部紀要第 22 号

学キャリアデザイン学会紀要 Vol. 9 (2012 年 2 月) 23 頁 - 32 頁

41. 「野田市郷土博物館における「政策連携」の成果と展望」野田市郷土博物館・市民会館年報・紀要 Vol. 4 (2012 年 3 月) 115 頁 - 120 頁
42. 「市町村合併にともなう文化施設の再編成のあり方～新潟市西蒲区の事例より～」法政大学資格課程年報 Vol. 1 (2012 年 3 月) 27 頁 - 37 頁
43. 「NPO が運営する公立博物館学芸員の給与の実態と問題改善」法政大学キャリアデザイン学会紀要 Vol. 10 (2013 年 2 月) 25 頁 - 36 頁
44. 「都市住民のライフキャリアの充実度をみる～千葉県北西部 10 市の事例から～」法政大学キャリアデザイン学部紀要第 10 号 (2013 年 3 月) 63 頁 - 92 頁
45. 「新潟市新津鉄道資料館を再生する」法政大学資格課程年報 Vol. 2 (2013 年 3 月) 23 頁 - 38 頁
46. 「日本の博物館学芸員の養成の現状と課題」日越外交関係樹立 40 周年記念国際シンポジウム『日本人の人材育成から学ぶ——さらなるベトナムの発展のために』ベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学 (2013 年 11 月) 145 頁 - 162 頁
47. 「指定管理者制度を導入した公立博物館はどのように変わったか (試論) ～NPO が運営する 10 館の事例を検証する～」法政大学キャリアデザイン学部紀要第 11 号 (2014 年 3 月) 41 頁 - 67 頁
48. 「大学における博物館学芸員の養成の現状と課題」法政大学資格課程年報 Vol. 3 (2014 年 3 月) 25 頁 - 34 頁
49. 「指定管理者制度による NPO 運営館の収入状況と課題——指定管理料・利用料金・NPO 財源の取り扱い」法政大学キャリアデザイン学部紀要第 12 号 (2015 年 3 月) 153 頁 - 173 頁
50. 「大学における学芸員養成課程の新カリキュラム実施の現状と評価～法政大学の旧カリキュラムと新カリキュラム受講生を比較する～」法政大学資格課程年報 Vol. 4 (2015 年 3 月) 13 頁 - 19 頁
51. 「鉄道資料館と商店街の連携とその波及効果～新潟市新津鉄道資料館と新津商店街の事例から～」法政大学キャリアデザイン学部紀要第 13 号 (2016 年 3 月) 43 頁 - 59 頁

52. 「公立博物館はどのように変わったか～『日本の博物館総合調査』の分析結果より～」法政大学資格課程年報 Vol. 5 (2016 年 3 月) 21 頁 - 30 頁
53. 「直営館のリニューアルと再生の取り組み——弘前市立博物館と福井県立恐竜博物館の事例から——」法政大学資格課程年報 Vol. 6 (2017 年 3 月) 19 頁 - 24 頁
54. 「博物館のコレクション管理の動向と展望——イギリスのコレクション管理から学ぶこと——」國學院大學雑誌第 118 巻第 11 号 (2017 年 11 月) 114 頁 - 136 頁
55. 「住民が設立した資料館とその展開——滋賀県の田上郷土史料館の事例から——」法政大学キャリアデザイン学部紀要第 15 号 (2018 年 3 月) 205 頁 - 219 頁
56. 「公立博物館の入館料は無料か有料か——博物館のあるべき姿を問い直す——」法政大学資格課程年報 Vol. 7 (2018 年 3 月) 23 頁 - 32 頁
57. 「公設財団法人による公立博物館運営の現状と課題～指定管理者制度の 15 年を検証する～」法政大学キャリアデザイン学部紀要第 16 号 (2019 年 3 月) 5 頁 - 32 頁
58. 「物産会から博覧会へ～博物館前史と黎明期を辿る～」明治大学学芸員養成課程紀要 30 (2019 年 3 月) 1 頁 - 13 頁
59. 「函館仮博物場の成立と展開」法政大学資格課程年報 Vol. 8 (2019 年 3 月) 23 頁 - 35 頁
60. 「博物館と地域コミュニティの連携——学びのネットワーク形成をめざして——」社会教育 No. 878 (2019 年 7 月) 12 頁 - 18 頁
61. 「公立博物館の所管の選択性が博物館行政におよぼす影響に関する一考察」全博協研究紀要第 22 号 (全国大学博物館学講座協議会) (2020 年 3 月) 1 頁 - 18 頁
62. 「日本学術会議史学委員会博物館・美術館等の組織運営に関する分科会が提言する学芸員の二区分案について」法政大学資格課程年報 Vol. 10 (2021 年 3 月) 55 頁 - 62 頁
63. 「19 世紀イギリスの公立博物館の成立について」法政大学資格課程年報 Vol. 11 (2022 年 3 月) 27 頁 - 34 頁

44 法政大学キャリアデザイン学部紀要第 22 号

64. 「博物館法改正と学芸員養成の在り方についてー全国大学博物館学講座協議会のアンケート結果の分析よりー」全博協研究紀要第 25 号 (2023 年 3 月) 15 頁 - 31 頁
65. 「博物館倫理を考える～国内外の倫理規程比較と現場の視点から～」(共著者: 川崎真緒、井畔杏里沙、趙 奕) 全博協研究紀要第 26 号 (2024 年 3 月) 59 頁 - 73 頁
66. 「日本の博物館における倫理規程の現状～現場における倫理に関する課題調査を踏まえて～」(共著者: 竹下春奈、大参翔平、松本亜美) 全博協研究紀要第 26 号 (2024 年 3 月) 75 頁 - 90 頁
67. 「文化観光拠点施設は「地域の活性化」を促進するのか——群馬県立歴史博物館の事例から——」(共著者: 野崎彩乃、野村遼平、馬場千紘) 全博協研究紀要第 27 号 (2025 年 3 月)
68. 「「文化観光拠点計画」の現状と課題——群馬県立歴史博物館の事例を通して——」(共著者: 有原寛、永井涼、山崎陽斗) 全博協研究紀要第 27 号 (2025 年 3 月)

【研究ノート・報告等】

1. 『前原遺跡』(共著者: 深沢百合子、伊藤富士夫、中津由紀子) (1975 年 11 月) 前原遺跡調査団・国際基督教大学考古学研究センター
2. 「前原遺跡Ⅳ中層 2 文化の礫群」(共著者: 小田静夫) 考古学研究第 23 巻第 1 号 (考古学研究会) (1976 年 7 月) 116 頁 - 119 頁
3. 『鈴木遺跡と旧石器時代』(共著者: 加藤有次、小田静夫、戸田正勝、中津由紀子、芳賀英一) (1976 年 11 月) 27 頁、小平市教育委員会・小平市鈴木遺跡調査会
4. 「先土器時代: 礫群と配石」『前原遺跡』(小田静夫・伊藤富治夫・C.T. キーリー編) (1976 年) 62 頁 - 98 頁、国際基督教大学考古学研究センター
5. 「先土器時代: 礫群」『新橋遺跡』(中津由紀子・千浦美智子・小田静夫・J.E. キダー編) (1977 年 3 月) 75 頁 - 95 頁、新橋遺跡調査会、
6. 「(遺跡近況) 鈴木遺跡」かわら版高井戸東 Vol. 1 (1977 年 9 月) 1 頁 - 2 頁
7. 「先土器時代: 遺物の分布」『鈴木遺跡Ⅰ』(鈴木遺跡調査団編) (1978 年 3 月)

102 頁 - 247 頁、鈴木遺跡刊行会

8. 「先史時代遺跡資料の造形保存法」(共著者: 加藤有次、森山哲和) 國學院大學博物館學紀要第 4 輯 (1980 年 3 月) 4 頁 - 24 頁
9. 「博物館学的発想にもとづく考古学調査～小平市鈴木遺跡の調査」國學院大學博物館學紀要第 4 輯 (1980 年 3 月) 36 頁 - 45 頁
10. 「先土器時代」『鈴木遺跡Ⅳ 都市計画道路小平 2・1・3 号線内』(鈴木遺跡調査団編) (1981 年 3 月) 15 頁 - 320 頁、鈴木遺跡刊行会
11. 「書評: 樋口清之・加藤有次著『こんなに役立つ博物館』」國學院大學博物館學紀要第 5 輯 (1981 年 3 月) 8 頁
12. Masao SUZUKI, Yoshiaki KANAYAMA and Kenji TOMURA, Intracite Obsidian Analysis of the Suzuki site, Tokyo, St. Paul's Review of Science Vol. 4, No. 4, 1983
13. Masao SUZUKI, Yoshiaki KANAYAMA, Akira ONO, Toshiaki TSURUMARU, Shizuo ODA and Kenji TOMURA, Obsidian Analysis: 1974-1984, St. Paul's Review of Science Vol. 4, No. 5, p. 131-140, 1984
14. Masao SUZUKI, Yoshiaki KANAYAMA, Yutaka AOKI and Kenji TOMURA, Intracite Obsidian Analysis of the Hashimoto site, Sagami-hara-shi, Kanagawa-ken, Japan, St. Paul's Review of Science Vol. 4, No. 5, p. 121-129, 1984
15. 「神奈川県相模原市橋本遺跡の黒曜石分析」旧石器考古学第 30 号 (旧石器文化談話会) (1985 年 4 月) 113 頁 - 117 頁
16. 「黒曜石分析の現状と課題」日本文化財科学会会報第 10 号 (1986 年 2 月) 1 頁 - 5 頁
17. 「日本地質学会討論会～100 万年前より新しい試料の地質年代測定に参加して」旧石器考古学第 33 号 (1986 年 11 月) 69 頁 - 72 頁
18. 「出土遺物の科学分析、黒曜石分析」(共著者: 鈴木正男、福岡久、戸村健児) 田代治西大宮バイパス No. 4 遺跡Ⅱ (大宮市遺跡調査会報告第 16 集) (1986 年) 112 頁 - 122 頁
19. 「考古学における黒曜石研究」東京の遺跡第 14 号 (東京考古談話会) (1987 年 2 月) 182 頁

20. 『千葉県野田市槇の内遺跡 ― 第Ⅳ次発掘調査』(共著者：下津谷達男)(1987 年 3 月) 237 頁、野田市遺跡調査会
21. 「文化財としての黒曜石」月刊文化財 No. 298 (1987 年 7 月) 13-23 頁
22. 「礫群の機能と用途」季刊考古学第 27 号 (1989 年 5 月)
23. 「伊豆半島段間遺跡出土の黒曜石原石」考古学雑誌第 75 巻第 1 号 (1989 年 9 月) 79 頁 - 92 頁
24. 「博物館は人骨展示に配慮を～歴史的な理解には復元模型で十分」朝日新聞 (朝刊) 10 月 9 日『論壇』(1989 年 10 月)
25. 「開館 30 周年記念特別展『野田と貝塚』の記録」MUSEUM ちば第 21 号 (千葉県博物館協会)(1990 年 3 月) 1 頁 - 9 頁
26. 「礫群研究の手がかり」東京の遺跡 No. 27 (東京考古談話会)(1990 年 5 月) 359 頁 - 360 頁
27. 「石器組成の変遷」(共著者：山本薫、柴田徹)石器文化研究 3 (1991 年 3 月) 103 頁 - 112 頁
28. 「書評：『石となった花』」UNIVERSUM (法政大学生生活協同組合)(1990 年 8 月) Vol. 12、5 頁、
29. 「野田市郷土博物館における特別展『古墳文化のあけぼの』について」博物館学雑誌第 16 巻第 1・2 号 (1991 年 3 月) 50 頁 - 53 頁
30. 「関東・中部地方の黒曜石の 3 大産地とその石器が出土した遺跡の分布図」『日本全図 (ジャパン・クロニック)』(宇野俊一・大石学・小林達雄・佐藤和彦・鈴木靖民・竹内誠・濱田隆士・三宅明正編)(1991 年 3 月) 30 頁、講談社
31. 「四代勝文斎と押絵細工」月刊文化財 340 号 (1992 年 1 月) 36 頁 - 45 頁
32. 「四代勝文斎の押絵行燈に見られる河鍋暁斎の嵌め込み絵」河鍋暁斎研究会誌第 46 号 (1992 年 3 月) 21 頁 - 22 頁
33. 「河鍋暁翠の絵馬」河鍋暁斎研究会誌第 46 号 (1992 年 3 月) 33 頁
34. 「(展覧会だより)「華ひらく押絵の新世界」」浮世絵芸術 104 (1992 年 4 月) 30 頁 - 32 頁
35. 「(書評) 佐藤宏之著 日本旧石器文化の構造と進化」法政史学第 45 号 (1993 年 3 月) 127 頁 - 129 頁

36. 「(座談会) 勝文斎と押絵」(共著者：岩崎均史、安村敏信、丸山伸彦) 博物館セミナーシリーズ4(野田市郷土博物館)(1993年3月) 26頁
37. 「(座談会) 野外博物館の現状と展望」(共著者青木豊・内川隆志・粕谷崇(司会) 加藤有次) 國學院雑誌第94巻3号(1993年3月) 66頁-91頁
38. 「野田市郷土博物館と醤油の町(上)」法政第448号(1993年11月) 36頁-37頁
39. 「野田市郷土博物館と醤油の町(下)」法政第449号(1993年12月) 38頁-39頁
40. 「縄文時代の人間活動」(共著者：倉田恵津子) 松戸市立博物館調査報告書2『縄文時代以降の松戸の海と森の復元』(1994年8月) 127頁-139頁
41. 「野田の醤油造り」特別展図録『江戸の大店高崎屋』文京ふるさと歴史館(1994年10月) 6頁-7頁
42. 「座談会：今、明かされる勝文斎の人と作品～そして野田と日本橋の関係」(共著者：有田芳男、岩崎均史) 日本橋189号(1995年1月) 7頁-13頁、日本橋コミュニティセンター
43. 「勝文斎の押絵行燈」目の眼 No. 221(1995年2月) 33頁-41頁、里文出版
44. 「勝文斎・里帰り展の顛末」滴第12号(1995年3月) 25頁、國學院大學
45. 「博物館実習について」千葉経済大学学芸員課程紀要創刊号(1996年3月)
46. 「地震災害と博物館」國學院大學博物館學紀要第20輯(1996年3月) 52頁-65頁
47. 「パネルディスカッション：千葉県の博物館における地震対策に関する現状と課題」(共著者：高木博彦・西山純子・榊原茂・鈴木昇一) MUSEUM ちば第27号(1996年3月) 11頁-28頁
48. 「阪神淡路大震災と博物館」関東の博物館第20号(関東地区博物館協会)(1996年3月)
49. 「エコミュージアムと遺跡の保存・活用」月刊文化財発掘出土情報168号(1996年9月) 4頁分
50. 「書評：『博物館学総論』」國學院雑誌第97巻10号(1996年10月) 58頁-61頁
51. 「博物館における小学生を対象にした歴史学習の実践」季刊ミュージアムデー

タ 35 (1996 年 12 月) 1 頁 - 5 頁

52. 「醬油の町・野田に伝わる押絵行燈」『新日本古典文学大系』第 96 巻付録、岩波書店 (1997 年 11 月)
53. 「老人ホーム移動博物館の実践とその意義づけ」『博物館研究』第 33 巻 6 号 (1998 年 6 月) 30 頁 - 35 頁
54. 「集落間の交流と交易」『季刊考古学』第 64 号 (1998 年 8 月) 59 頁 - 63 頁
55. 「地域のネットワークを支える博物館 野田市郷土博物館の幻の童謡作曲家をめぐる活動」『ミュゼ』第 25 号 (1998 年 10 月) 8 頁 - 10 頁
56. 「書評：地域博物館と市民の関わり」『ミュゼ』第 31 号 (1998 年 8 月) 11 頁
57. 「対談：今だからこそ「まちづくり」の心を育てていく地域博物館を」(共著者：佐々木亨)『ミュゼ』第 33 号 (1999 年 2 月) 14 頁 - 19 頁
58. 「野田市中央小学校の音楽授業と統合的学習の試み」『ミュゼ』第 34 号 (1999 年 4 月) 16 頁
59. 「山中直治の復活 5 周年記念の住民コンサートの開催」『ミュゼ』第 35 号 (1999 年 6 月) 19 頁 - 21 頁
60. 「現代社会の批評機能を持つ博物館活動の試み～野田市郷土博物館の「私のコレクション展」」『博物館学雑誌』第 25 巻第 1 号 (1999 年 9 月) 63 頁 - 70 頁
61. 「地方分権社会における地域博物館の現状と課題」『ミュゼ』第 39 号 (2000 年 2 月) 20 頁 - 23 頁
62. 「地域社会の崩壊を食い止める～地域博物館の新たな役割～」『ミュゼ』第 41 号 (2000 年 6 月) 24 頁 - 25 頁
63. 「旧石器発掘ねつ造を問う～速やかに民間主導で情報公開を」『ミュゼ』第 44 号 (2000 年 12 月) 22 頁 - 23 頁
64. 「4 年前の特別展がきっかけ・活動の広がり・企画展『山中直治の童謡を描いた童画の世界』を通して」『ミュゼ』第 44 号 (2000 年 12 月) 16 頁 - 17 頁
65. 「博物館と情報公開① 情報公開の目的と意義」『ミュゼ』第 45 号 (2001 年 2 月) 21 頁 - 23 頁
66. 「博物館と情報公開② 一次資料の持つ「事実」とは」『ミュゼ』第 46 号、(2001 年 4 月) 24 頁 - 25 頁
67. 「博物館と情報公開③ 集めること、触れること、ミュゼ」第 47 号 (2001 年 6

月) 26 頁 - 27 頁

68. 「博物館と情報公開④ 一次資料と二次資料の特性を共に生かす」ミュゼ第 48 号 (2001 年 8 月) 26 頁 - 27 頁
69. 「まちづくりを念頭に住民に自立化促す活動で」教育新聞 (2001 年 9 月)
70. 「前期旧石器問題の社会的背景を探る～文学部博物館学講座・シンポジウムと企画展から」(共著者: 段木一行) 法政第 553 号 (2001 年 9 月) 6 頁 - 10 頁
71. 「博物館と情報公開⑤ 近現代の歴史展示について」ミュゼ第 49 号 (2001 年 10 月) 24 頁 - 25 頁
72. 「博物館と情報公開⑥ 「まちづくり」と人権問題への取り組み」ミュゼ第 50 号 (2001 年 12 月) 22 頁 - 23 頁
73. 「博物館と情報公開⑦ 「持続可能な開発」についての環境情報」ミュゼ第 51 号 (2002 年 1 月) 26 頁 - 27 頁
74. 「市民と博物館・学校・行政の連携による新しい地域文化づくり～千葉県野田市における童謡作曲家山中直治の復活の軌跡」博物館学雑誌第 27 巻第 1 号 (2002 年 3 月) 25 頁 - 36 頁
75. 「野田市郷土博物館の五感にうたえる特別展「親子で楽しむ文化財展」博物館学雑誌第 27 巻第 2 号 (2002 年 3 月) 39 頁 - 44 頁
76. 「博物館と情報公開⑧ 前期旧石器問題に対する博物館の対応 (前編)」ミュゼ第 52 号 (2002 年 4 月) 30 頁 - 31 頁
77. 「博物館と学校の連携」ミュゼ第 52 号 (2002 年 4 月) 8 頁 - 11 頁
78. 「博物館と情報公開⑨ 前期旧石器問題に対する博物館の対応 (後編)」ミュゼ第 53 号 (2002 年 6 月) 34 頁 - 35 頁
79. 「前期旧石器捏造事件」季刊考古学第 80 号 (2002 年 7 月) 123 頁 - 126 頁
80. 「博物館と情報公開⑩ 大学博物館の情報公開」ミュゼ第 54 号 (2002 年 8 月) 28 頁 - 29 頁
81. 「博物館と情報公開⑪ NPO 博物館と情報公開 (前編)」ミュゼ第 55 号 (2002 年 11 月) 26 頁 - 27 頁
82. 「モノの魅力を引き出す映像展示」視聴覚教育第 56 巻 11 号 (2002 年 11 月) 30 頁 - 31 頁
83. 「博物館と情報公開⑫ NPO 博物館と情報公開」ミュゼ第 56 号 (2003 年 1

月) 30 頁 - 31 頁

84. 「報告「能楽資料の美」と「沖縄文化研究所所蔵貴重文献展」を終えて」法政第 549 号 (2003 年 1 月) 16 頁 - 17 頁
85. 「報告：企画展「能楽資料の美」と「沖縄文化研究所所蔵貴重文献展」の報告と評価」教育学会誌第 30 号 (法政大学教職課程) (2003 年 3 月) 87 頁 - 96 頁
86. 「資格課程とキャリアデザイン」教育学会誌第 30 号 (2003 年 3 月) 36 頁 - 37 頁
87. 「博物館と情報公開^⑬ 「まちづくり」に不可欠な情報公開」ミュゼ第 57 号 (2003 年 3 月) 30 頁 - 31 頁
88. 「法政大学文学部創立八〇周年記念シンポジウム「21 世紀の知とところと人間」(共著者：勝俣浩、ジョン・M・プロウカリング、吉村浩一牧野英二) 法政大学文学部紀要 No. 48 (2003 年 3 月) 45 頁 - 79 頁
89. 「博物館と学校の新たな関係づくりとは」国立民族学博物館・博物館国際シンポジウム『自由な学びを支援するには——英米の博物館事情を探る』講演記録・論文集 (2003 年 4 月) 110 頁 - 112 頁
90. 「博物館と情報公開^⑭ 企業博物館～電力館の原子力展示～」ミュゼ第 58 号 (2003 年 5 月) 30 頁 - 31 頁
91. 「博物館と情報公開^⑮ 博物館リテラシーということ」ミュゼ第 59 号 (2003 年 7 月) 30 頁 - 31 頁
92. 「書評：新時代に求められる博物館の指針書——マネジメントの必要性——」図書新聞 2650 (2003 年 10 月)
93. 「この本を読んで日本民藝館へ行こう」法政第 559 号 (2003 年 11 月) 9 頁
94. 「日本の公立博物館の回顧と展望～「まちづくり」をふまえた公立博物館の新しい役割～」Conference Preceedings on Facing the Challenging 21st Century, Dialogues among Museums in Taiwan and Japan (2004 年 3 月) 124 頁 - 142 頁
95. 「キャリアデザインする博物館へ」ミュゼ第 65 号 (2004 年 7 月) 28 頁 - 29 頁
96. 「学芸員とキャリアデザイン」ミュゼ第 67 号 (2004 年 11 月) 24 頁 - 25 頁
97. 「問われはじめる学芸員のビジネスモデル」ミュゼ第 67 号 (2004 年 11 月) 13 頁

98. 「(巻頭言) 日本キャリアデザイン学会中間集会「まちづくりとキャリアデザイン」に向けて」キャリアデザインニュースレター4 (2005 年 1 月)
99. 「若者がキャリアデザインをはかる博物館——私の仕事館——」ミュゼ第 68 号 (2005 年 1 月) 22 頁-23 頁
100. 「地域博物館の経営改革という課題」しまねの古代文化第 12 号 (2005 年 3 月) 141 頁-169 頁
101. 「会場からの発言：オーケストラとミュージアムの経営改革の類似性」文化資源学第 3 号 (2005 年 3 月) 150 頁
102. 「キャリアデザインと学校教育」ミュゼ第 69 号 (2005 年 3 月) 26 頁-27 頁
103. 「「キャリアデザインによるまちづくり」の提唱」文部科学教育通信 No. 125 (2005 年 6 月) 20 頁-21 頁
104. 「日本キャリアデザイン学会中間大会(野田市)を終えて」(タウン誌) 月刊とも第 312 号 (2005 年 7 月) 14 頁
105. 「(心に残るこの一冊) 博物館を思うことの大切さ——『父さんのからだを返して～父親を骨格標本にされたエスキモーの少年～』」法政第 582 号 (2005 年 11 月) 13 頁
106. 「崩れた定説 残った不信 旧石器捏造 5 年」読売新聞夕刊 (寄稿) (2005 年 11 月 2 日)
107. 「博物館が抱える問題点とこれから」建築雑誌 Vol. 122 No. 1557 (2006 年 2 月) 14 頁-15 頁
108. 「(座談会) 野田を語る⑭『作曲家中山直治を偲ぶ～生誕 100 年に当たって～』」(共著者：杉崎善治郎、秋葉啓子、奥住淳、(司会) 下津谷達男) 野田市史研究第 17 号 (2006 年 3 月) 5 頁-64 頁
109. 「まちづくりへの発展性：コメント」法政大学キャリアデザイン学会紀要 Vol. 3 (2006 年 3 月) 171 頁-172 頁
110. 「キャリアデザインのためになる地域博物館」月刊観光 No. 474 (2006 年 4 月) 10 頁-13 頁
111. 「NPO 法人が博物館をキャリアデザインの拠点にする」日本キャリアデザイン学会ニュースレター 30 (2007 年 3 月)
112. 「国際博物館会議の博物館学学科会 (ICOFOM) に参加して」ミュゼ第 80

号 (2007 年 4 月) 26 頁 - 27 頁

113. 「NPO 運営で地域博物館が市民のキャリアデザインの拠点に」国づくりと研修 117 号 (2007 年 7 月) 22 頁 - 25 頁
114. 「博物館でキャリアデザイン～人づくりから地域コミュニティの活性化へ～」地方自治職員研修第 40 巻第 10 号 (2007 年 10 月) 67 頁 - 69 頁
115. 「博物館・美術館等を拠点とした市民活動への支援 —— 花王・コミュニティミュージアム・プログラム 2007 から」ミュゼ第 83 号 (2008 年 1 月) 8 頁
116. 「パネルディスカッション「学芸員の在り方について」部会参加報告」博物館研究第 43 巻 2 号 (2008 年 2 月) 31 頁
117. 「21 世紀の博物館像を考える —— 博学連携への期待」『大学改革シンポジウム・三重大学開学 60 周年記念事業 文化力と地域の活性化を拓く博学連携 (博物館と大学との連携) 記録集』(2009 年 2 月)
118. 「英国の博物館事情～コレクション・マネジメントの現場から～」ミュゼ第 87 号 (2009 年 2 月) 18 頁 - 19 頁
119. 「NPO 法人が指定管理者を活用した新しい地域博物館活動 —— 市民のキャリアデザインと地域コミュニティの拠点づくりをめざして ——」地域政策研究第 46 号 (2009 年 3 月) 42 頁 - 47 頁
120. 「野田市郷土博物館の事例：特集指定管理者の是非を問う —— 社会教育施設はどう変わるのか ——」社会教育 No. 772 (2010 年 10 月) 74 頁 - 78 頁
121. 「NPO が運営する公立博物館 —— 野田市郷土博物館の事例より ——」社会教育 No. 795 (2012 年 9 月) 31 頁 - 33 頁
122. 「指定管理者制度の現状と課題～NPO が運営する公立博物館の事例から～
①学芸員の給与について」ミュゼ第 101 号 (2012 年 9 月) 20 頁 - 23 頁
123. 「指定管理者制度の現状と課題～NPO が運営する公立博物館の事例から～
②施設や設備の老朽化と対策」ミュゼ第 102 号 (2012 年 12 月) 22 頁 - 23 頁
124. 「キャリアデザインに向けた教育実践、法政大学キャリアデザイン学部創設 10 周年記念シンポジウム：新時代のキャリアデザイン —— 10 年の研究と教育から探る ——」(共著者：高野良一・小門裕幸・宮城まり子・白戸洋) 法政大学キャリアデザイン学会紀要 Vol 10 (2013 年 2 月) 192 頁 - 223 頁

125. 「キャリアデザイン学部認定資格「地域学習支援士」創設にむけての調査研究」法政大学教育研究 4（2013 年 3 月）
126. 「指定管理者制度の現状と課題 ～NPO が運営する公立博物館の事例から～
③野田市郷土博物館と直営館の生産性を比較する」ミュゼ第 103 号（2013 年 3 月）22 頁 - 27 頁
127. 「日本列島中央部における原産地別黒曜石の分布図」『詳説日本史 B』山川出版社（2013 年 3 月）10 頁
128. 「市町村合併による公立博物館の行くえ① 休館から存続に転換した松江市の事例から」ミュゼ第 104 号（2013 年 6 月）26 頁 - 30 頁
129. 「市町村合併による公立博物館の行くえ②官民協働で地域の文化施設の拠点づくりをめざす新潟市西蒲区の事例から」ミュゼ第 105 号（2013 年 9 月）24 頁 - 29 頁
130. 「市町村合併による公立博物館の行くえ③北杜市による資料館の統廃合と再編の試み」ミュゼ第 106 号（2013 年 12 月）24 頁 - 27 頁
131. 「市町村合併による公立博物館の行くえ④～コレクションの利用価値を高めた秋田県大仙市の事例から～」ミュゼ第 107 号（2014 年 4 月）26 頁 - 27 頁
132. 「15 の学部長から新入生のあなたへ：オリジナルなキャリアデザインを築こう」法政第 666 号（2014 年 4 月）11 頁
133. 「市町村合併による公立博物館の行くえ⑤～新潟市新津鉄道資料館を改革する～」ミュゼ第 108 号（2014 年 7 月）24 頁 - 29 頁
134. 「指定管理者制度を導入した公立博物館はどのように変わったか①～NPO 運営の博物館を分析する～」ミュゼ第 109 号（2014 年 10 月）26 頁 - 29 頁
135. 「指定管理者制度を導入した公立博物館はどのように変わったか②～NPO 運営の博物館の収入状況をみる～」ミュゼ第 110 号（2015 年 1 月）26 頁 - 29 頁
136. 「佐藤一子教授のご退職にあたって」法政大学キャリアデザイン学部紀要第 12 号（2015 年 3 月）5 頁 - 7 頁
137. 「指定管理者制度を導入した公立博物館はどのように変わったか③「島根方式」のその後～島根県立美術館と島根県立古代出雲歴史博物館～」ミュゼ第 111 号（2015 年 6 月）26-29 頁

138. 「指定管理者制度を導入した公立博物館はどのように変わったか④「日本の博物館総合調査」(中間報告)の分析結果より」ミュゼ第 112 号(2015 年 10 月) 26 頁-31 頁
139. 「学問領域への問題意識を評価——キャリアデザイン学部」学研・進学情報第 48 巻第 7 号(2015 年 10 月) 8 頁-9 頁
140. 「砂丘館 指定管理者運営 10 周年に寄せて」新潟日報(寄稿) 2015 年 11 月 17 日朝刊(文化欄)
141. 「指定管理者制度を導入した公立博物館はどのように変わったか⑤小規模指定管理館の現状と課題」ミュゼ第 113 号(2016 年 2 月) 26 頁-27 頁
142. 「指定管理者制度を導入した公立博物館はどのように変わったか⑥指定管理館の基本的な構造と行政上の留意点」ミュゼ第 114 号(2016 年 6 月) 24 頁-26 頁
143. 「(座談会)博物館学の今を語る」(共著者:青木豊、鷹野光行、芳井敬郎)國學院雑誌第 117 巻第 12 号(2016 年 12 月) 37 頁-61 頁
144. 「佐貫浩教授、八幡成美教授、山田泉教授のご退職にあたって」法政大学キャリアデザイン学部紀要第 14 号(2017 年 3 月) 5 頁-8 頁
145. 「導入から 15 年、指定管理者制度は何をもたらしたか? 博物館学の専門家・金山喜昭教授が検証する」公益・一般法人 No.982(2019 年 3 月) 38 頁-41 頁
146. 「世界が共有する博物館のあり方の動向を実感、今後につなげよう」ミュゼ第 124 号(2019 年 11 月) 11 頁
147. 「地域活性化にむけた博物館の使命と実践の取組み」郷土館のモノ語り No. 7(青森県立郷土館)(2020 年 3 月)
148. 「法政ミュージアムまでの道のり」法政大学資格課程年報 Vol.9(2020 年 3 月) 93 頁-96 頁
149. 「(コメント)鎌倉彫資料館の連携活動と今後の展開」法政大学資格課程年報 Vol.9(2020 年 3 月) 30 頁
150. 「東博の入館料値上げ問題」学会ニュース No.132(全日本博物館学会)(2020 年 4 月) 6 頁-7 頁
151. 「さまざまな教え」法政大学資格課程年報 Vol.10(2021 年 3 月) 16 頁-17 頁

152. 「あとがき」『21 世紀の博物館学・考古学』（青木豊先生古稀記念発起人会編）（2021 年 2 月）529 頁 - 530 頁、雄山閣
153. 「イギリスにおけるコレクション管理の実務指針と日本のコレクション管理の課題」國學院大學博物館学紀要第 47 輯（2023 年 3 月）123 頁 - 135 頁
154. 「日本博物館の藏品利用及其面临的问题」博物院（中国科学院監修）科学出版社（2023 年第 2 期）13 頁 - 15 頁（中文）
155. 「法政大学キャリアデザイン学部オーラルヒストリー（1）～歴代学部長・初代事務主任・座談会」（共著者：笹川孝一、高野良一、児美川孝一、平山喜雄）法政大学キャリアデザイン学部紀要第 20 号（2023 年 3 月）135 頁 - 186 頁
156. 「キャリアデザイン学部設立期の思い出」法政大学キャリアデザイン学部紀要第 21 号（2024 年 3 月）13 頁 - 16 頁
157. 「埋蔵文化財の調査・研究と博物館における資料の保存と活用」文化財信濃第 51 巻第 1 号（長野県文化財保護協会）（2024 年 4 月）1 頁 - 11 頁
158. 「博物館の収蔵コレクションの現状と課題を考える＜報告＞」カレントアウェアネス（国立国会図書館）482、2024 年 6 月 27 日

【展覧会図録等】

1. 「野田の戦中戦後展」野田市郷土博物館（1985 年 10 月）
2. 「スキー展」野田市郷土博物館（1986 年 10 月）
3. 「壺展」野田市郷土博物館（1987 年 10 月）
4. 「日本刀展」野田市郷土博物館（1988 年 10 月）
5. （1989 年 10 月）「野田と貝塚～奥東京湾沿岸部における縄文時代前期黒浜期の貝塚文化～」野田市郷土博物館
6. 「古墳文化のあけぼの～1700 年前の野田～」野田市郷土博物館（1990 年 10 月）
7. 「華ひらく押絵の新世界～勝文斎の偉業～」野田市郷土博物館（1991 年 10 月）
8. 「旧石器時代の狩りと暮らし～1 万 2 千年前の東葛地方～」野田市郷土博物館（1992 年 10 月）
9. 「最後の浮世絵師～豊原國周展～」野田市郷土博物館（1993 年 10 月）

10. 「野田市郷土博物館 35 年の歩み」野田市郷土博物館（1994 年 10 月）
11. 展覧会「～名匠勝文斎と明治の絵師達～押絵行燈の世界展」ミキモト（銀座ミキモトホール）（1995 年 1 月）
12. 「櫻田精一～人と作品（美をみる眼）～」野田市郷土博物館（1995 年 10 月）
13. 「よみがえる山中直治童謡の世界～昭和初期に活躍した郷土の作曲家～」野田市郷土博物館（1996 年 10 月）
14. 「写真が語る野田の歴史と文化～市民がつづる郷土への想い～」野田市郷土博物館（1997 年 10 月）
15. 「野田文化の芽生え～明治から昭和中期の社会教育史～」野田市郷土博物館（1999 年 10 月）
16. 「親子で楽しむ文化財展」野田市郷土博物館（2001 年 10 月）
17. 「法政大学スポーツ展～法政野球～」法政大学資格課程年報 Vol. 1（2012 年 3 月）
18. 「法政大学と大内兵衛展～われらの願い～」法政大学資格課程年報 Vol. 2（2013 年 3 月）
19. 「野上豊一郎と弥生子展」法政大学資格課程年報 Vol. 3（2014 年 3 月）
20. 「谷川徹三展」法政大学資格課程年報 Vol. 4（2015 年 3 月）
21. 「法政大学所蔵俵有作コレクション～色にみる風展～」法政大学資格課程年報 Vol. 5（2016 年 3 月）
22. （企画展）「猿にまつわる文化史展」法政大学資格課程年報 Vol. 6（2017 年 3 月）
23. 「鳥・再発見～人びとの祈りと語り～」法政大学資格課程年報 Vol. 7（2018 年 3 月）
24. 「発犬展～犬と歩んだわたしたち～」法政大学資格課程年報 Vol. 8（2019 年 3 月）
25. 「亥と子～十二支の終わりと始まりの動物たち～」法政大学資格課程年報 Vol. 9（2020 年 3 月）
26. 「牛と生活展」法政大学資格課程年報 Vol. 10（2021 年 3 月）
27. 「虎でいしょなる」法政大学資格課程年報 Vol. 11（2022 年 3 月）
28. 「こんなところにうさぎ展」法政大学資格課程年報 Vol. 12（2023 年 3 月）

29. 「身近な龍 遠い龍」法政大学資格課程年報 Vol. 13 (2024 年 3 月)

【学会口頭発表、講演等】(未定稿)

1. 「先土器時代の礫群」日本人類学会・日本民族学会第 23 回連合大会 (東京外国語大学) (1979 年 10 月)
2. 「博物館学的発想にもとづく考古学調査」全日本博物館学会研究大会 (國學院大學) (1980 年 6 月)
3. 「相模原市橋本遺跡の調査」青木豊) 神奈川県遺跡調査研究会発表委員会 (横浜市開港記念館) (1983 年 10 月)
4. 「神奈川県相模原市橋本遺跡の黒曜石分析」(共同発表者: 鈴木正男) 日本考古学協会第 50 回研究大会 (法政大学) (1984 年 4 月)
5. 「神奈川県相模原市橋本遺跡の黒曜石分析～特に神津島産とみられる黒曜石について～」(共同発表者: 鈴木正男、戸村健児) 1984 年日本第四紀学会大会 (学習院大学) (1984 年 8 月)
6. 「千葉県野田市槇の内遺跡の調査成果と漁業活動の検討」(共同発表者: 下津谷達男) 日本考古学協会第 52 回研究発表会 (駒沢大学) (1986 年 4 月)
7. 「関東地方における先史時代黒曜石分析～特に神津島産・高原山産について～」(共同発表者: 鈴木正男、戸村健児) 1986 年日本第四紀学会研究発表会 (筑波・地質調査所) (1986 年 8 月)
8. 「黒曜石分析における考古学研究の意義づけ」日本文化財科学学会大会 (奈良国立文化財研究所) (1987 年 6 月)
9. 「縄文海進期における古奥東京湾の古環境と遺跡分布」(共同発表者: 小杉正人、小池裕子、張替いずみ、樋泉岳二) 日本文化財科学学会大会 (奈良国立文化財研究所) (1987 年 6 月)
10. 「奥東京湾域における縄文黒浜期の貝塚形成と古環境」(共同発表者: 小杉正人、小池裕子、張替いずみ、樋泉岳二) 日本文化財科学学会 (学習院大学) (1988 年 5 月)
11. 「博物館展示資料の背後にある人間性への配慮」全日本博物館学会研究大会 (1988 年 6 月)
12. 「相模原市橋本遺跡の調査」(共同発表者: 青木豊、土井英好) 第 7 回神奈川

- 県遺跡調査・研究発表会（横浜市開港記念会館）（1988 年 10 月）
13. 「奥東京湾域の縄文貝塚の形成史の特徴」1990 年度日本第四紀学会ミニシンポジウム（埼玉県立博物館）（1990 年 6 月）
 14. 「大崎貝塚縄文後期の貝層出土ウマ遺存体の年代学的研究とその意義」（共同発表者：松浦秀治他）日本文化財科学会（1991 年 5 月）
 15. 「南関東旧石器時代における信州系黒曜石の在り方」長野県旧石器文化研究交流会（鷹山町）（1991 年 9 月）
 16. 「勝文斎と押絵」博物館セミナー公開座談会」（共同発表者：岩崎均史・安村敏信・丸山伸彦）（野田市郷土博物館）（1991 年 10 月）
 17. 「旧石器時代の石器石材の交易」芝山町教育委員会（1992 年 11 月）
 18. 「八丈島倉輪遺跡の黒曜石分析」（共同発表者：鈴木正男、戸村健児）1993 年日本第四紀学会大会（福岡市博物館）（1993 年 8 月）
 19. 「阪神淡路大震災と博物館」関東地区博物館協議会（1995 年 6 月）
 20. 「縄文時代の日本海沿岸部における黒曜石の交流」日本考古学協会第 61 回研究大会（東海大学）（1995 年 5 月）
 21. 「縄文時代における信州産黒曜石の交流」関東甲信越静地区埋文職員研究会（戸倉上山田温泉）（1995 年 11 月）
 22. 「パネルディスカッション：千葉県の博物館における地震対策に関する現状と課題」千葉県博物館協会（千葉市）（1996 年 6 月）
 23. 「阪神淡路大震災と博物館」全国埋蔵文化財連絡協議会（1996 年 10 月）
 24. 「黒曜石の故郷を探る～理化学研究の歩みと成果」（明治大学考古学博物館）（1997 年 6 月）
 25. 「市民との幅広い連携の在り方～博物館の枠組みを考える～」日本ミュージアム・マネジメント学会研究会（1999 年 2 月）
 26. 「シンポジウム：博物館と地域・学校」（国立教育会館社会教育研修所）（1999 年 7 月）
 27. 「地域博物館論」（国立教育会館社会教育研修所）（2000 年 6 月）
 28. 「博物館と住民の連携による山中直治童謡の普及活動」（千葉県）東葛飾地区社会教育振興大会（主催：東葛飾地区社会教育連絡協議会）（2000 年 9 月）
 29. 「シンポジウム：前期旧石器問題とその背景を考える」（発表者：小林達雄、

小田静夫、小野昭、笹川孝一) 法政大学文学部博物館学講座 (法政大学) (2001 年 7 月)

30. 「シンポジウム：これからの博物館にもとめられるもの」(国立教育政策研究所社会教育実践研究センター) (2001 年 7 月)
31. 「博物館学の再構築に向けて～地域博物館学の提唱 (試論)」日本ミュージアム・マネジメント学会理論構築部会 (科学技術館) (2002 年 1 月)
32. 「公共施設はこうすれば活きる～千葉県野田市の小さな博物館が行った大きな住民運動～」宮城県公共施設活性化検討会 (主催：宮城県企画部地域振興課) (2002 年 2 月)
33. 「わが国の博物館史・海外の博物館史」文部科学省博物館職員講習 (主催：文部科学省、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター) (2002 年 5 月)
34. 「開かれた博物館をめざして」第 41 回北海道博物館大会 (主催：北海道博物館協会) (2002 年 7 月)
35. 「ネットワーク化時代の中での博物館職員の役割」北海道立生涯学習推進センター生涯学習関連施設運営専門研修講座 博物館・郷土資料館コース (主催：北海道立生涯学習推進センター) (札幌市・道民活動センタービル「かでる 2・7」) (2002 年 9 月)
36. 「博物館の現在と未来」東京国際大学学芸員養成課程特別講義 (東京国際大学) (2002 年 10 月)
37. 「資料館・博物館の今日的な役割と課題——生涯学習と市民参画——」富士見市立資料館「市民学芸員養成講座」(富士見市立資料館) (2002 年 11 月)
38. 「法政大学文学部創立八〇周年記念シンポジウム：21 世紀の知とところと人間」(共同発表者：勝保浩、ジョン・M・ブロウカリング、吉村浩一、牧野英二) (法政大学) (2003 年 3 月)
39. 「日本の公立博物館の回顧と展望～「まちづくり」をふまえた公立博物館の新しい役割～」国際シンポジウム「変貌する 21 世紀の博物館～新世紀における台湾と日本の博物館世界との交流に向けて」(台湾、国立歴史博物館) (2003 年 11 月)
40. 「郷土の作曲家 山中直治の生涯文学講座——明治・大正を生きた作家たち——」(主催：野田市立東部公民館) (2003 年 12 月)

41. 「公立博物館の回顧と展望」法政大学キャリアデザイン学会第 5 回研究会（法政大学）（2003 年 12 月）
42. 「（講演・シンポジウム）地域博物館とまちづくり「博物館とまちづくり～市民とともに～」」（主催：NPO 法人千葉まちづくりサポートセンター）（千葉市）（2004 年 7 月）
43. 「博物館の管理運営を考える」日本ミュージアム・マネジメント学会制度問題研究部会・事業戦略研究部合同研究会（2004 年）
44. 「地域博物館の経営改革という課題」平成 16 年度日本博物館協会中国支部研修会（主催：日本博物館協会中国支部）（2004 年 11 月）
45. 「川崎市市民ミュージアムのこれから——改善委員会からの報告——」（2005 年 2 月）
46. 「これからの博物館を考える——利用者からみた博物館——」松本市まると博物館友の会講演会（主催：松本市まると博物館友の会）（松本市立博物館）（2005 年 3 月）
47. 「野田の童謡作曲家山中直治」川間婦人学級（野田市川間公民館主催）（2005 年 3 月）
48. 「公立博物館の回顧と展望～まちづくりをふまえた新しい公立博物館の役割～」法政大学キャリアデザイン学会例会（2005 年 12 月）
49. フォーラム「博物館法改正を考える」全日本博物館学会第 32 回研究発表会（2007 年 6 月）
50. 「指定管理者制度を利用した野田市郷土博物館の改革と評価」全日本博物館学会第 37 回研究発表会（2011 年 6 月）
51. 「地域博物館と市民活動～野田市郷土博物館の改革と評価～」法政大学キャリアデザイン学部連続シンポジウム（法政大学）（2011 年 10 月）
52. 「キャリアデザインに向けた教育実践」法政大学キャリアデザイン学部創設 10 周年記念シンポジウム：新時代のキャリアデザイン——10 年の研究と教育から探る——」（発表者：高野良一・小門裕幸・宮城まり子・白戸洋、司会：金山）（法政大学）（2012 年 10 月）
53. 「直営・指定管理・地方独立法人」平成 25 年度 第 3 回ミュージアム・マネジメント研修（文化庁主催）（2013 年 12 月）

54. 「指定管理者制度を導入した公立博物館はどのように変わったか～NPO が運営する 14 館の事例を検証する～」全日本博物館学会第 40 回研究大会（明治大学）（2014 年 6 月）
55. シンポジウムⅡ「大学における学芸員養成を展望する」（発表者：青木豊・栗原祐司・鷹野光行・矢島國雄、司会：金山）（法政大学学芸員課程設立 50 周年記念シンポジウム（法政大学）（2014 年 12 月）
56. 「基調報告：大学における学芸員養成の現状と課題」法政大学学芸員課程設立 50 周年記念シンポジウム（法政大学）（2014 年 12 月）
57. シンポジウムⅠ「新カリキュラムの実践と課題」（発表者：今野農・里見親幸・菅井薫・杉長敬治・田尻美和子、司会：金山）法政大学学芸員課程設立 50 周年記念シンポジウム（法政大学）（2014 年 12 月）
58. 「市民のキャリアデザインをサポートする博物館～野田市郷土博物館の事例～」Museum 2015 自己変革する博物館 変化し続ける組織づくり（明治大学）（2015 年 1 月）
59. 「指定管理者制度による NPO 運営館の収入状況と課題～指定管理料・利用料金・NPO 財源の取り扱い～」全日本博物館学会第 41 回研究大会（京都国立博物館）（2015 年 6 月）
60. 「これからの博物館のあり方をさぐる～県立博物館・市立博物館の事例より～」山形県博物館協議会研修会（山形県立博物館）（2015 年 7 月）
61. シンポジウム「公立博物館・美術館の指定管理運営館の現状と課題」（趣旨説明・司会進行）、科研費基盤研究 B「日本の博物館総合調査研究」（法政大学）（2015 年 9 月）
62. 「大学における学芸員養成の現状と課題」法政大学学芸員養成を展望する～新カリキュラムの実践と検証を踏まえて～、法政大学資格課程（法政大学）（2015 年 12 月）
63. 「小規模指定管理館の現状と課題」日本博物館協会 平成 27 年度研究協議会（東京国立博物館黒田記念館）（2016 年 1 月）
64. 「博物館と市民・NPO の連携」堺市博物館活性化戦略会議（堺市博物館）（2016 年 2 月）
65. 「鉄道資料館と商店街の連携とその波及効果——新潟県新津鉄道資料館と新

- 津商店街の事例から——」全日本博物館学会第 42 回研究大会（明治大学）（2016 年 6 月）
66. 「小規模公立博物館と指定管理者制度」日本博物館協会 平成 28 年度研究協議会（江戸東京博物館）（2017 年 2 月）
67. 「指定管理者制度の現状と課題について」環境省・EPO 北海道 第 2 回環境学習の可能性を考える（札幌市）（2017 年 3 月）
68. 「NPO 法人による地域博物館の指定管理運営～野田市郷土博物館：10 年間の成果と課題～」（共同発表者：柏女弘道）全日本博物館学会第 43 回研究大会（滋賀県立琵琶湖博物館）（2017 年 7 月）
69. 「旧石器時代を巡って」野田地方史懇話会講演会（野田市北部公民館）（2017 年 8 月）
70. 「テーマ実現に迫るビジョンの検討」平成 29 年度（文部科学省）博物館学芸員専門講座（国立教育政策研究所社会教育実践センター）（2017 年 12 月）
71. 「地方博物館におけるコレクション管理について～日本とイギリスの事例から考える～」秋田県博物館等連絡協議会研修会（秋田県立博物館）（2018 年 2 月）
72. 公設財団法人の指定管理館の運営状況と課題、全日本博物館学会第 44 回研究大会（明治大学）（2018 年 6 月）
73. 「公設財団法人の指定管理館の運営状況と課題」科学研究費助成事業シンポジウム『指定管理者制度による公立博物館の運営～財団法人指定管理館の現状と課題～』（法政大学）（2018 年 10 月）
74. 「伊勢堂岱縄文館のビジョンとテーマ実現を考える」伊勢堂岱縄文館（北秋田市伊勢堂岱縄文館）（2018 年 11 月）
75. 「テーマ実現に迫るビジョンの検討」平成 30 年度博物館学芸員専門講座（国立教育政策研究所社会教育実践センター）（2018 年 12 月）
76. 「コレクション管理の状況」科研費研究会「公設財団法人のガバナンス改革と博物館・美術館のコレクション管理の現状と課題」（法政大学）（2019 年 1 月）
77. 「NPO 法人による野田市郷土博物館の運営を総括する～指定管理者による 12 年間の活動を振り返る～」（共同発表者：柏女弘道、大貫洋介、寺内健太郎）第 45 回全日本博物館学会研究大会（新潟県立歴史博物館）（2019 年 6 月）

78. 「大会趣旨説明：公立社会教育施設の所管のあり方の見直しの経緯と変更点」
全国大学博物館学講座協議会大会（法政大学）（2019 年 6 月）
79. 「博物館の機能と役割」令和元年度社会教育主事講習（国立教育政策研究所社会教育実践センター）（2019 年 7 月）
80. 「大鹿村とエコミュージアムを考える（ワークショップ）」大鹿村観光協会・大鹿村共催（長野県大鹿村）（2019 年 11 月）
81. 「地域活性化にむけた博物館の使命と実践的な取り組み」令和元年度日本博物館協会東北支部・東北地区博物館協会研修会並びに青森県博物館大会（八戸市立博物館）（2019 年 11 月）
82. 「テーマ実現に迫るビジョンの検討」令和元年度博物館学芸員専門講座（国立教育政策研究所社会教育実践センター）（2019 年 12 月）
83. 「博物館の機能と役割」令和元年度社会教育主事講習（国立教育政策研究所社会教育実践センター）（2020 年 7 月）
84. 「博物館活動と地域づくり」令和 2 年度博物館学芸員専門講座（国立教育政策研究所社会教育実践センター）（2020 年 12 月）
85. 「学芸員を研究者と認定する制度について」今後の博物館制度を考える 博物館法改正を見据えて 主催：日本学術会議史学委員会博物館・美術館等の組織運営に関する分科会・全日本博物館学会）（2021 年 3 月）
86. 「歴史系博物館のコレクション管理について」2021 年度全日本博物館学会研究大会（高知みらい科学館 オーテピア）（2021 年 6 月）
87. （2021 年 7 月）「博物館の機能と役割」令和 3 年度社会教育主事講習（国立教育政策研究所社会教育実践センター）
88. 「博物館の役割と運営」日本看護協会（日本看護協会 J NA ホール）（2021 年 9 月）
89. 「文化審議会答申「博物館法制度の今後の在り方について」コメント」全日本博物館学会研究会（京都国立近代美術館）（2022 年 2 月）
90. 「学芸員の役割と待遇問題」2022 年度全国大学博物館学講座協議会大会（岡山理科大学）（2022 年 6 月）
91. 「コレクション管理の考え方と方法」東海三県博物館協会研究交流会（セラミックパーク MINO）（2022 年 12 月）

92. 「博物館法改正と学芸員養成の在り方について～全国大学博物館学講座協議会によるアンケート結果の分析より～」全日本博物館学会第 49 回研究大会（國學院大學）（2023 年 7 月）
93. 「博物館法改正と博物館の行方～特にコレクション管理について～」日本博物館協会中国支部・山口県博物館協会合同研修会（下関市）（2023 年 11 月）
94. 「埋蔵文化財の調査・研究と博物館における資料の保存と活用」長野県文化財保護協会（長野市）（2023 年 11 月）
95. 「博物館と地域コミュニティの連携」狛江市郷土資料館（仮称）設立をめざす会主催の勉強会（狛江市）（2024 年 3 月）
96. 「博物館法改正と博物館の行方 ～特にコレクション管理について～」島根ミュージアムネットワーク研究会（松江市）（2024 年 6 月）
97. 「博物館の現在と未来～広島県立歴史博物館に期待すること～」広島県立歴史博物館文化講演会（広島県立歴史博物館）（2024 年 6 月）
98. 「改正博物館法とコレクション管理をめぐる諸問題～博物館登録制度の参酌基準の解釈について～」全日本博物館学会第 50 回研究大会（北海道開拓の村）（2024 年 6 月）
99. 「収蔵庫の満杯問題の所在と課題」法政大学資格課程シンポジウム「博物館の収蔵コレクションの現状と課題を考える」（法政大学）（2024 年 5 月）
100. 「博物館のコレクション管理の在り方を考える」第 62 回北海道博物館大会（北海道博物館協会他）（函館市）（2024 年 7 月）
101. 「博物館学の萌芽 / 函館仮博物館を事例として」『体系・新博物館』出版プレシンポジウム第 1 回「何のための博物館学？～岐路に立つ博物館・求められる未来像」（國學院大學）（2024 年 10 月）

■メディア製作

1. 監修（2020 年 3 月）「博物館を支える学芸員の仕事」（共同監修者：駒見和彦、半田昌之）DVD 全 3 巻 丸善出版株式会社
2. 「公立博物館の経営形態（公立博物館における指定管理者制度の課題）」（対談者：佐々木亨）放送大学『博物館経営論』（2023 年度開講）（2022 年 5 月 13 日収録）

■マスコミ報道（2017年5月以降）

1. NHK テレビ総合 2017年5月18日 『おはよう日本（ニュース）』「博物館の“危機” いま何が…」コメント紹介
2. 朝日新聞（夕刊）2018年5月16日「博物館展示に市民の視点」コメント紹介
3. 北鹿新聞（秋田県）2018年11月18日「文化の創出や交流 伊勢堂岱縄文館」講演の紹介記事。
4. 朝日新聞（朝刊）（山形）2018年12月6日「郷土史家の遺品行き場ない」コメント紹介
5. 愛媛新聞 2019年10月18日、山陰新聞 2019年10月27日他（共同通信配信）「特集；地域の胎動」インタビュー記事
6. 読売新聞（朝刊）（文化欄）2020年2月13日「東博など 観覧料値上げ 波紋」コメント紹介
7. 朝日新聞（朝刊）（文化文芸欄）2020年2月16日「国立博物館 なぜ今値上げ？ 東博、平常展の一般料金 620円→1000円に」コメント紹介
8. 読売新聞（夕刊）2020年9月20日「美術館再開一歩ずつ 収入激減 存続の危機」コメント紹介
9. 新潟日報（朝刊）2021年3月26日「転換期の県内美術館経営（番外編）識者インタビュー：価値ある企画 提案を」インタビュー記事
10. 中国新聞（朝刊）2021年4月28日「岩国市が計画 新博物館で5か所の資料一括保存 郷土の宝どう生かす」インタビュー記事
11. 朝日新聞（栃木版）2021年6月18日「県博物館に新収蔵庫 スペース1.6倍運用開始」インタビュー記事
12. 東京新聞（朝刊）2021年10月3日「市民ミュージアム再生 文化を守る覚悟問われる」コメント紹介
13. 北日本新聞（朝刊）2021年12月4日、9日「立山博物館開館30周年（上）（下）」コメント紹介
14. 読売新聞（朝刊）（文化欄）2022年5月5日「学芸員疲弊 非正規4割」コメント掲載
15. 読売新聞（朝刊）2022年9月25日「書評（記者が選ぶ）博物館とコレクション

ン管理（金山喜昭編）」

16. NHK テレビ総合 2023 年 4 月 21 日放送『首都圏情報ネタどり』『博物館が変わる』インタビュー
17. NHK テレビ総合 2023 年 9 月 13 日放送『NHK ニュースおはよう日本』『栃木県立博物館 博物館の収蔵資料』インタビュー
18. 朝日新聞（夕刊）2023 年 9 月 22 日「消えゆく民具 伝えるために」（歴史資料を守る④）インタビュー記事
19. 朝日新聞（朝刊）（文化欄）2023 年 11 月 7 日「科博の CF 成功の先に『収蔵品をどう守り活用、他館でも難題』インタビュー記事
20. 日本経済新聞（朝刊）2023 年 12 月 10 日「収蔵庫不足、全国厳しく」インタビュー記事
21. 北海道新聞（朝刊）2024 年 1 月 1 日「国立科博 CF 成功したけれど…」インタビュー記事
22. 毎日新聞（夕刊）2024 年 6 月 17 日「公立博物館の収蔵庫問題でシンポ」取材記事
23. 公明新聞（朝刊）2024 年 7 月 12 日「収蔵庫問題 日本版スペクトラムを」執筆記事
24. NHK 奈良放送局 2024 年 7 月 12 日「奈良県立民俗博物館 収蔵庫問題」インタビュー
25. 北海道新聞（朝刊）2024 年 7 月 17 日「収蔵資料の適切管理考える 函館で北海道博物館大会」コメント紹介
26. 日本経済新聞（朝刊）2024 年 7 月 29 日「美術館が美術品を売る」コメント紹介
27. 北海道新聞（朝刊）2024 年 8 月 17 日「博物館収蔵庫足りず 道内 14 館 使用率 9 割以上」コメント紹介
28. 読売新聞（朝刊）（文化欄）2024 年 9 月 3 日「博物館 収蔵庫が満杯」コメント紹介
29. NHK テレビ総合 2024 年 9 月 5 日『時論公論』『どう受け継ぐ？ 博物館の民具』調査データ提供
30. 毎日新聞（朝刊）（総合）2024 年 9 月 6 日「あふれる博物館」コメント紹介

31. 産経新聞 2024 年 9 月 5 日 (デジタル配信)「あふれる収蔵品「いずれは限界」、全国の博物館 6 割で 寄贈資料廃棄には反発も」コメント紹介
32. 産経新聞 (朝刊) 2024 年 9 月 6 日「文化庁主導で手引作成を」論点記事掲載
33. 朝日新聞 (夕刊) 2024 年 9 月 11 日「公立館 7 割超で収蔵庫「満杯」限られたスペースに何をどう残す」コメント掲載
34. 上毛新聞 (朝刊) 2024 年 11 月 6 日「博物館、美術館の収蔵庫逼迫 資料保管「国が基準を」」コメント掲載
35. 読売新聞 (朝刊) 2024 年 12 月 11 日「集めた民具 博物館「満杯」」コメント掲載
36. 岩手日報 (朝刊) (論説) 2024 年 12 月 15 日「博物館「満杯」問題」調査内容紹介
37. BRUTUS (ブルータス) 2025 年 2 月 1 日「未来に向けて変化するこれからのミュージアム」監修
38. 日本経済新聞 (朝刊) 2025 年 2 月 25 日「博物館、収蔵庫が足りない」コメント紹介